



AMAN SUMMER PALACE, BEIJING

謹んで新年のお祝いを申し上げます。お陰様で私の連載「世界のリーディングホテル」も今回お正月合併号で225回目を迎えることができました。これもひとえに皆様方のご支援の賜物と心より御礼申し上げます。さて、コロナ禍蔓延の状況下、一昨年12月以来、海外に出掛けられない異例の展開となりました。この状況は変わらず不透明感が漂いますが、HOTERES誌で未発表の海外リーディングホテル滞在のデータは潤沢にございますのでご安心ください。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。

小原 康裕



筆者 **小原 康裕**
国際ホテルジャーナリスト

慶応義塾大学法学部法律学科卒
投資顧問会社 Haraken & Co., Ltd. CEO
JHRCA 日本ホテルレストランコンサルタント協会専務理事
JARC 宿泊施設関連協会アドバイザーボードメンバー
SKAL International Tokyo, Professionnels du Tourisme 会員

www.jhrca.com/worldhotel/?cat42
www.hoteresonline.com
<https://www.facebook.com/yasuhiro.obara.16>

New Site (随時更新中)
www.whj.jp

アマンサマーパレス北京「Aman Summer Palace, Beijing」のホテル本館全景。その名の通り、隣接する清朝皇帝の夏の離宮「頤和園」に由来し、2008年、アマンリゾートが最初となる都市型リゾートホテルを中国・北京に誕生させた



「頤和園」とは西太后が贅を尽くした紫禁城の夏の離宮であり、元々は清の6代皇帝乾隆帝が母の還暦を祝って造営した「清流園」という名の庭園であった



左右に巨大な獅子像を配置したアマンサマーパレス北京の正門。頤和園東門のすぐ外に隣接している

Aman Summer Palace, Beijing

アマンサマーパレス北京「Aman Summer Palace, Beijing」はその名の通り、隣接する清朝皇帝の夏の離宮「頤和園」に由来し、2008年、アマンリゾートが最初となる都市型リゾートホテルを中国・北京に誕生させたものだ。アマンサマーパレス北京「北京頤和安縵酒店」の見所は、頤和園の西太后への接見を待つ要人の控えの間として実際に使用されていた居間・建物などを、アマンリゾートが中国伝統様式に則^{のつと}って大規模改修や増築を施し、ラグジュアリーホテルとして見事に蘇らせている点にある。

「頤和園」とは西太后が贅を尽くした紫禁城の夏の離宮であり、元々は清の6代皇帝乾隆帝が母の還暦を祝って造営した「清流園」という名の庭園であった。第2次アヘン戦争で破壊され、1886年にこれを頤和園として修復したのが西太后である。その際、西太后は創建時の乾隆帝の母思いの故事にならい、皇帝の光緒帝の名のもとに西太后の隠居所として建築させたものであった。また、その莫大な修復費に北洋艦隊の経費を流用したため、日清戦争敗北の一つとされ、急速な清朝の滅亡に繋がって行くこととなる。

左右に巨大な獅子像を配置した大門をくぐると、ホテル本館となる清朝伝統様式の建物が見えて来る。エントランスホールは黒檀などダーク調のウッドを多用した重厚な雰囲気、緻密な彫りを施した豪壮な伝統の建具などに圧倒される。今回は戸建てパヴィリオンスイート「Deluxe Suite」をご紹介したい。全体で51ある客室のうち、専用の中庭に面した伝統的な四合院造りの建物だ。室内は応接室、居間、寝室、バスルームから成り、どれも清王朝の古典的しつらえと現代のモダンなデザインを調和させている。レストランは充実しており、「御膳」の文字が掲げられた建物の中に日本料理「Nama」、西洋料理「The Grill」が水面のコートヤードを挟んで並んでいる。中国料理「Chinese Restaurant」は別棟にあり、中国琴の生演奏が楽しめる。圧巻なのは本館地下1階・2階に5000㎡の広大な面積を誇るSPA施設だ。25mのスイミングプールやトレーニングジムも付帯し、更に専用のシアタールームも用意するなど、巨大な地下施設は近未来的な空間となっている。

アマンのゲストにとって嬉しいことは、塀で隔てられた頤和園にアマン側にある特別の通用門からフリーパスで、好きな時間に入園ができることであろう。しかも、園内地図やペットボトルを渡され、帰りには手拭きタオルを用意して迎えてもらえる。また夏ならば、一般客が入園する前に頤和園でのご来光を拝むことも可能である。ここは北京中心部から30分程で行ける隠れ家的なアマンと言える。



ゴールドの「AMAN」プレートが輝くライトアップされたアマン正門



いかにも中国といった雰囲気のレセプションデスク



アマンサマーパレス北京のホテル本館車寄せ。この地下に25mのスイミングプールなどを含む5000㎡の広大なSPA施設があるとは想像できないであろう



エントランスホールは黒檀などダーク調のウッドを多用した重厚な空気が流れる



大きく『御膳』の文字が掲げられた風情あるレストラン棟。アマンサマーパレスの“食”の中心となる建物で、日本料理「Nama」、西洋料理「The Grill」の2軒のレストランが入る



広大なアマンサマーパレスの敷地中央にある蓮池から「Reflection Pavilion」を望む



蓮池を眺め、瞑想しながらゆったりとした時間を楽しめる「Reflection Pavilion」の館内



西洋料理の「The Grill」。ブレイクファストはこのレストランが受け持ち、和・洋・中華の多様な朝食メニューが並ぶ



すしカウンターもあり、日本料理全般をまかなう和食堂「Nama」



緻密な彫りを施した豪華な伝統の建具など、このスペースはまるで皇帝の玉座のようだ



「御膳」館内にある水面のコートヤード。右手に日本料理「Nama」、左手に西洋料理「The Grill」が並んでいる



中国料理「Chinese Restaurant」は「御膳」から離れた別棟にあり、広東、四川料理など幅広い料理をカバーしている



ディナーの時間帯は中国琴の生演奏が入り楽しめる



一戸建てパビリオンのスイート「Deluxe Suite」が入る伝統的な四合院造りの建物。本来、中央玄関から左右に分かれる2ベッド4名用のスイートだが、通常は一方のベッドルームをクローズして中央にある応接間を含めて片側2名用としている



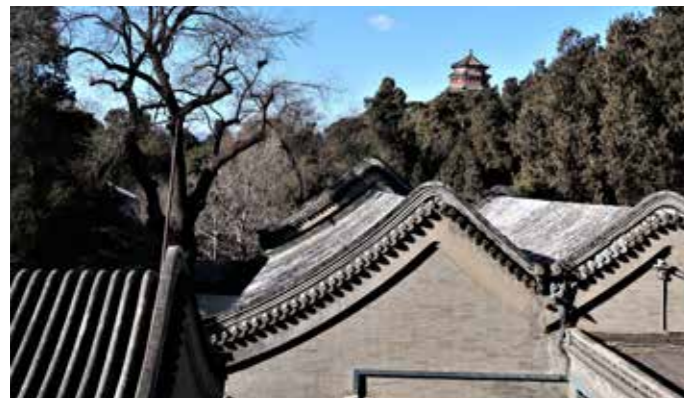
一戸建てパビリオンのスイート「Deluxe Suite」のリビングルーム。頤和園の西太后への接見を待つ要人の控えの間として実際に使用されていた居間・建物などを、中国伝統様式に則って大規模改修や増築を施し、ラグジュアリーホテルとして見事に蘇らせている



アマンサマーパレスはゲストにさまざまなアクティビティを提供し、中国茶のテイストリングもその一つだ



そのほか、書道や切り絵など、伝統芸術のエキスパートがデモンストレーションや体験会を開催するアクティビティルームも用意している



広大なアマンサマーパレスの敷地にある小高い丘から俯瞰するアマンの建物群



塀で隔てられた頤和園にアマン側にある特別の通用門からフリーパスで、好きな時間に入園ができ、帰りには手拭きタオルを用意して迎えてもらえる



中国歴代王朝の伝統様式を受け継ぐ古典的なベッドルーム



「Deluxe Suite」の室内は応接間、居間、寝室、バスルームから成り、どれも中国王朝の古典的しつらえと現代のモダンなデザインを調和させている



大型の2シンクを備えたパウダーコーナーと独立型のバスタブ